サービスラーニングで得たもの

活動先：NPO 法人 はっぴいわん大府

１．学んだこと

私は、地域に住む高齢者が生きがいを持って暮らしていけるための居場所作りを行っているはっぴいわん大府で 5 日間の活動を行った。そこでの活動を通して多くの出会いや気づきがあった。今回自分たちで企画した参加はできなかったが、その分理事長やボランティアの方から話を聞く機会が多くあり、またスタッフの方や地域の方の笑い声が絶えない温かい雰囲気の中にいて身を持って感じることが多くあった。それは、生きがいの意義と居場所の大切さである。私は当初、地域に住む高齢者にとっての生きがい作りがどのように行われているか興味を持ちはっぴいわん大府で活動することを決めた。しかし、実際に一緒に活動してみてそこで働くボランティアの方にとっても、はっぴいわん大府での活動がその方への生きがいへと繋がっていることに気がついた。ここでの活動がけして一方通行ではなく、そこに集まる人びとが相互に助け合い触れ合うことで、それぞれの生きがいになっていることを実感できた。またもう一つ気づいたのは、生きがいの内容や理由はほんの些細なことでもいいということである。生きがいと考えるとどこか立派な趣味があったり、大きな目標だったりと見つけることが難しいように思っていた。しかしそこに集まる人たちの笑顔や楽しそうな様子を見ていて、ただ集まるだけ、ただ話すだけ、ただみんなでご飯を食べるだけという身近で些細なことこそが、本当は大切であり、生きがいに繋がっていることに気がつくことができた。

また、はっぴいわん大府という居場所の役割が、毎日楽しくおしゃべりができ、美味しいご飯を食べながらみんなで交流するだけでなく、その中で自然と情報交換が行われていくことだと分かった。そして、そこから些細なことであっても困ったことがあれば利用者さん同士やその家族同士など地域の住民で助け合いが生まれてくる。そういった支え合いから地域に自立した高齢者が増えていくのである。そのため、居場所が支え合いの地域を創るには必要だと思った。はっぴいわん大府の最終的な目標である「はっぴいわん大府が町のみんなで支えるいつ来てもいい、いつ帰ってもいい、もうひとつの家となり、助け合いの仲間作りができる地域にしたい」という想いに対して、はっぴいわん大府が１つのきっかけ作りの場となっている。そして、そこに集まる人たちや楽しそうにボランティアとして働くスタッフの方の姿を見て、居場所というものの大切さを実感することができた。

２．活動を通して見えてきた社会課題

活動での気づきを下にリフレクションを行っていく過程で､見えてきた社会課題がある。現在多くの地域で高齢化が進み、より重度の方しかサービスが満足に受けられないという状態になっている。そういった中で地域に住む軽度の障害をもった高齢者の方や元気な高齢者にとっての居場所が少ないという問題があり、けして暮らしやすい環境だとは言い難い。そうするといずれ今地域に暮らしている高齢者の方が重度になり、更に高齢化も進む

一方で悪循環を招き、介護保険だけではどうしようもならない状態も避けられない。そのため、町に自立した高齢者を増やすことや、町の住民が互いに支え合うことが大切である。そこで、はっぴいわん大府での活動が関わってくる。そもそも、代表者の久保田さんが活動を始めたきっかけは「暮らしやすい町にしたい」という想いからであり、色んな人の支えを受けながら今のような形になっている。誰しもが願うそのような想いに対して、はっぴいわん大府が目指しているのは、「高齢者の楽しいたまり場を作り、最後まで生きがいを持って皆ピンピンコロリといけたらいいね」という理念。地域に暮らす退屈な時を過ごしていた高齢者の方が新たに趣味を見つけ、ここでの会話や食事を生きがいにしている様子を見て、もしはっぴいわん大府がなかったらどうなっていたのだろうかと考えるとともに、各地には同じようにそのような居場所を必要としている人がたくさんいるのではないかと思った。代表者の久保田さんが「はっぴいわん大府はこれからの自分のためにもやっている」と言っていたように、居場所があり、その中で助け合いの仲間作りができれば、自ずと暮らしやすい地域になると思う。それが自分を含め地域の人たちにとってプラスになっていくのだと感じた。そのような気づきから、今の地域の中に介護保険を利用しての施設はたくさんあっても、はっぴいわん大府のような誰でも自由に来ることができる場所はほとんどないと知った。しかし、これから高齢化がどんどん進んでいくと、サービスなどを受けられない人も出てきてしまう。そういった時に誰でも利用できる場所が今後地域の中には更に求められると思う。介護保険ではなく、はっぴいわん大府独自の自主事業だからこそできる地域貢献。その役割の大きさに今回は NPO という名の居場所の存在の大切さについて気づくことができた。

３．最後に

サービスラーニング全体を振り返ってみて、自分の中で変化があったことに気がついた。今回はっぴいわん大府へ行き色んな人と触れ合う中で、初めは不安だらけだったのが、途中からは楽しさに変わった。前に踏み出したり、新しいことに挑戦したりすることはなかなか勇気がいることだと思う。今回、活動にあたり事前学習、事前訪問を含めて初めてのことばかりだった中、踏み出すことの楽しさを知れたのは大きいことだと思う。今回感じることができた、自ら地域に出ることの楽しさ、リフレクションを行いながら自分で問題を追究することの難しさや面白さは、これからの大学生活や社会に出た時の糧にしていきたいと思う。また、サービスラーニングをやってきた中で自分がこれから成長していきたいことも見えてきた。それは、自分が感じたこと考えたことを人に伝えるということである。授業中にも、それぞれが発言する場や活動について発表する時間が多くあった。上手く自分の言葉にして話すことは難しかったが、回数を重ねるごとにそういったことに対する抵抗は少なくなっていった。それは、今回の活動があったからだと思う。実際にはっぴいわん大府で多くの人の想いを吸収し、また学校でのリフレクションを行っていく中で、みんなにはっぴいわん大府のことを知ってほしい、自分が今回学んだことをみんなに言いたいと思うようになっていったのである。しかし、まだ苦手意識が残っているので、今回感じたたくさんの人に伝えたいという想いを大切に、これから多くの場で積極的に発言ができるように成長していきたい。そして、サービスラーニングでの経験がこれからの成長のきっかけとなるように、色んな事に対して興味を持ち、経験し学んでいきたいと思う。